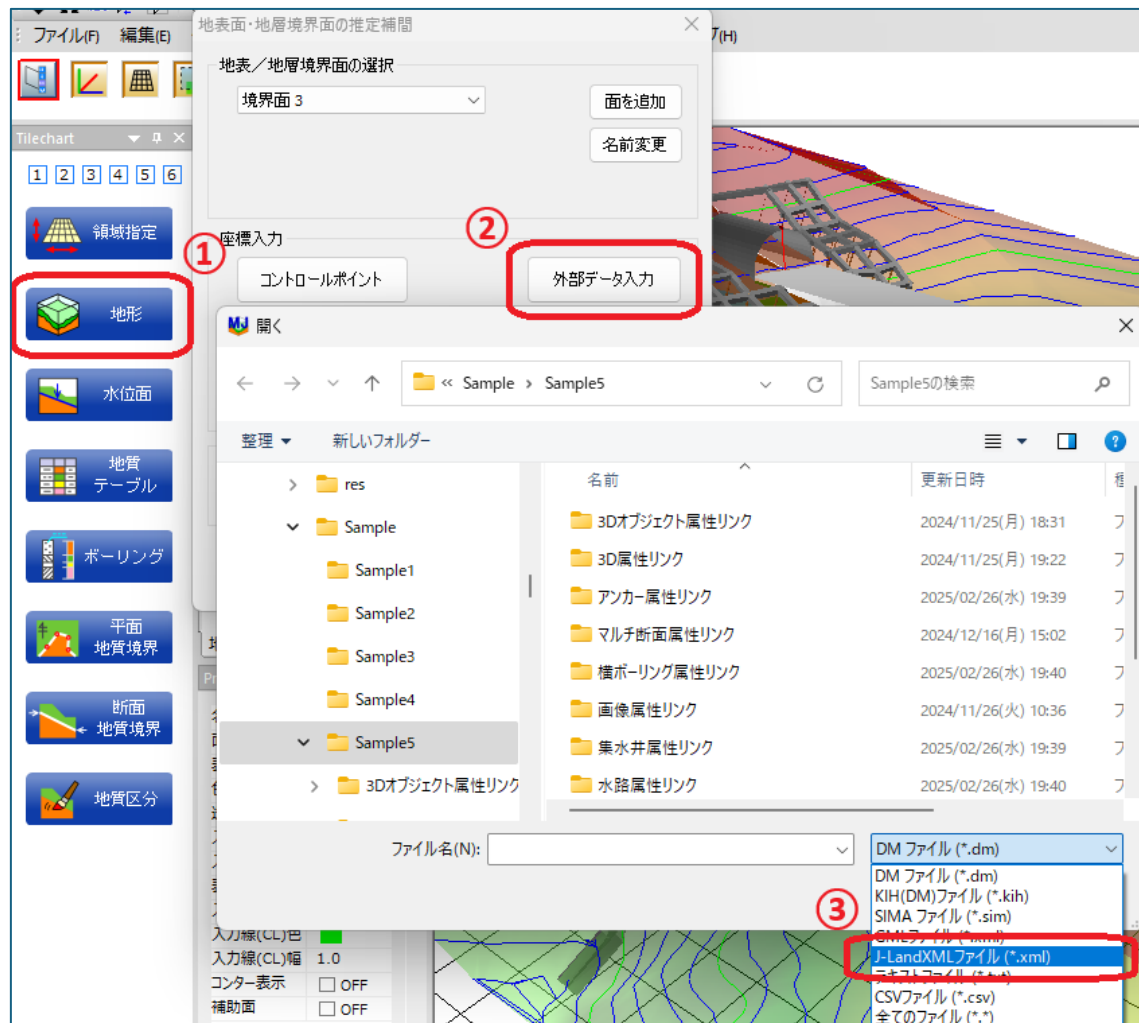


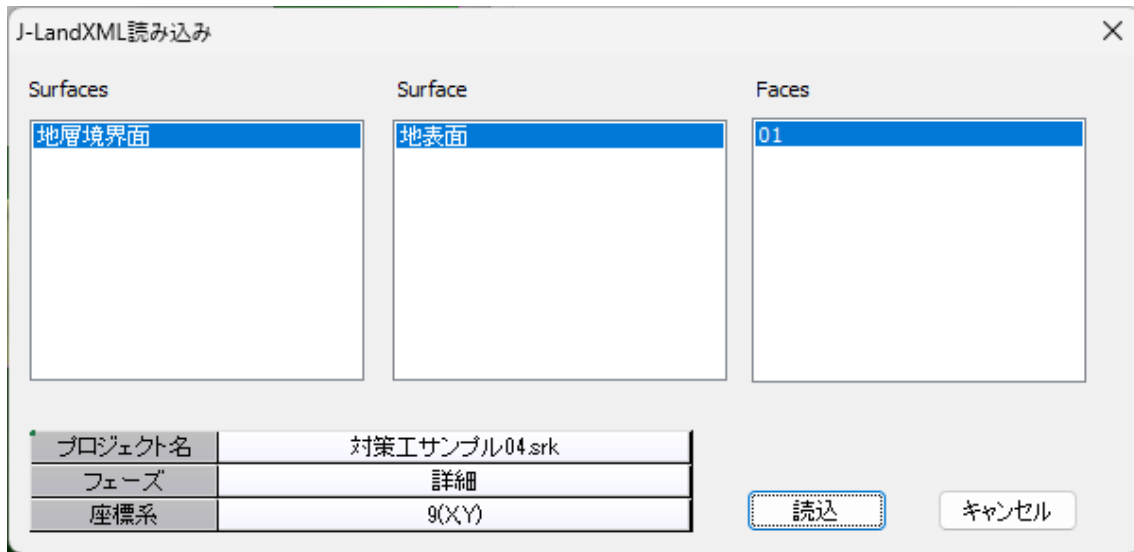
LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準(案)に沿った作成手順

●J-LandXML 形式データ読み込み

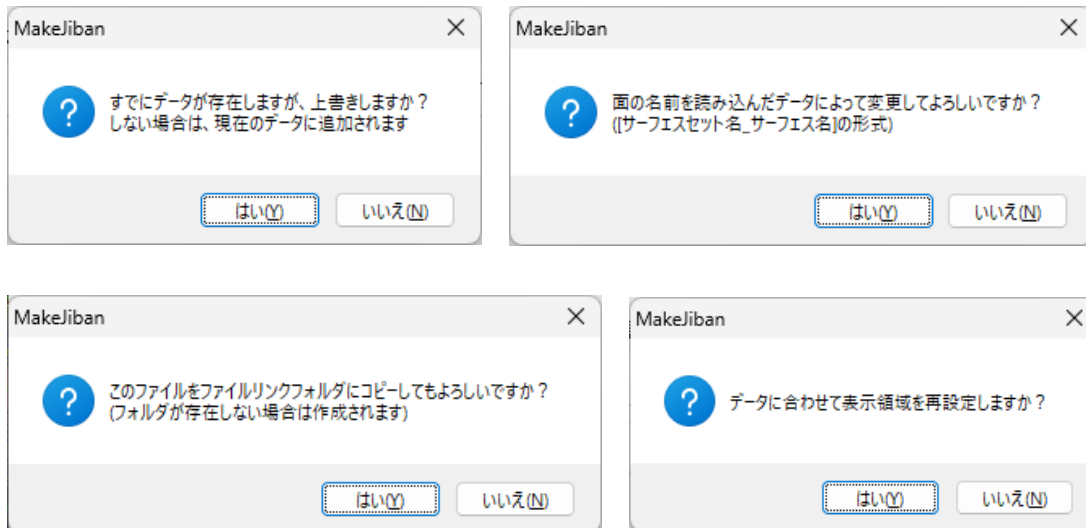
MakeJiban では地盤モデルに利用できる地形・地層境界面などを J-LandXML 形式データから読み込むことができます。



- ① MakeJiban のタイルチャートの「地形」から地表面・地層境界面の推定補間ダイアログを開きます。
- ② コンボボックスから受け入れる境界面を選択し、「外部データ入力」ボタンを押します。
- ③ 開くダイアログからファイル形式を J-LandXML(*.xml)選択し、ファイルを読み込むと下記のダイアログが出ます。



J-LandXML の要素の中で面の要素だけを読み込みますので、このダイアログから読み込みたい Surfaces, Surface, Faces のリストを順番に選択します。読み込める要素は1度に1つの境界面になります。「読み込」ボタンを押すと選択した境界面が画面に配置されます。

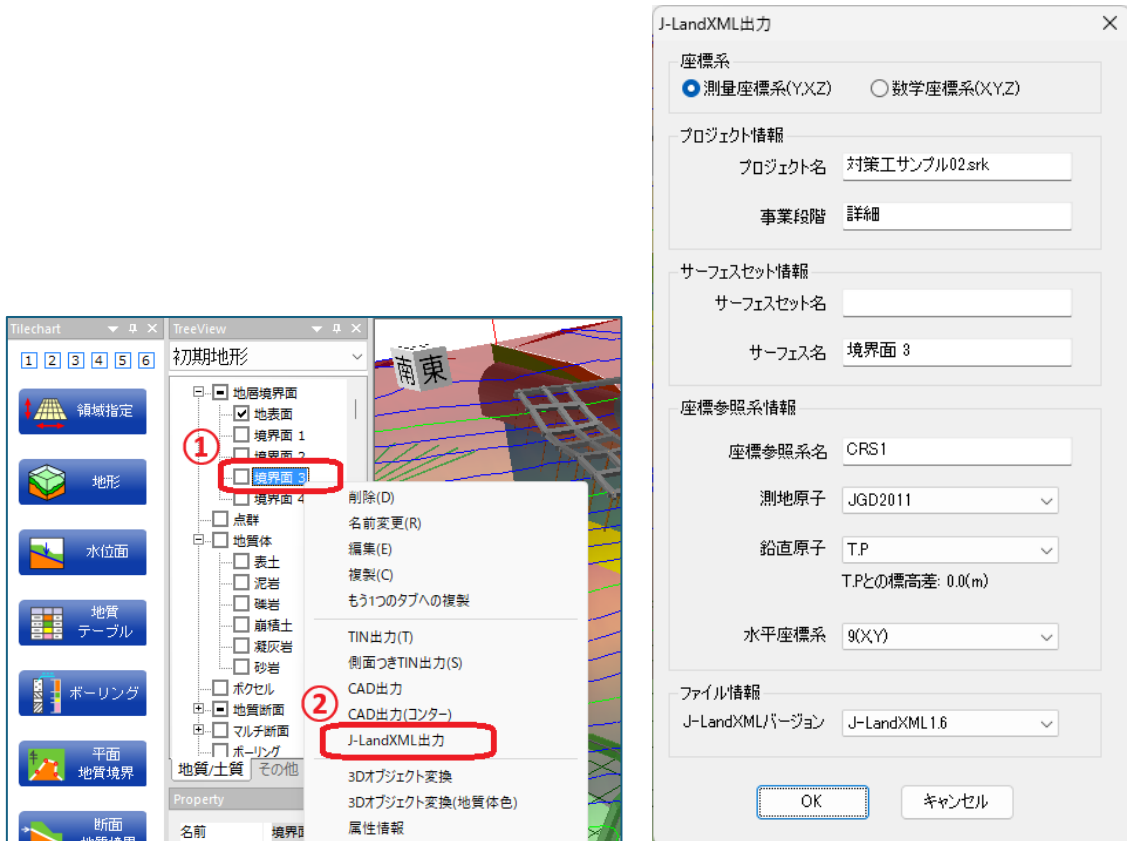


読み込みの際には使用状況により上記のメッセージボックスが出てデータ処理時に必要な事項について聞いてきます。使用状況に合わせて「はい/いいえ」を選んで下さい。MakeJiban に慣れてない場合には全部「はい」で進んだ方が良いでしょう。

また、J-LandXML 形式は測量座標で構成されているため、読み込み時に平面直角座標に変換されて読み込まれます。

● J-LandXML 形式データ出力

地層境界面を J-LandXML 形式で出力することが出来ます。J-LandXML には面の要素だけを出力します。



- ① MakeJiban のツリービューの境界面リストから出力したい境界面で、マウス右ボタンを押します。
- ② メニューリストから「J-LandXML 出力」を選択すれば、J-LandXML 出力ダイアログが出ます。ダイアログから座標系や各種パラメータの設定ができますので、必要な項目に記入するか、そのまま「OK」でデータの保存ができます。モデルの状況に合わせてお使いください。

出力した XML ファイルは J-LandXML を読み込めるソフトから利用することができます。